

# あたらしくはいった本 (平成31年3月 貸出開始資料から)

●小説 帝国ホテル建築物語(植松三十里/著) 作家の人たち(倉知淳/著) 人類最年長(島田雅彦/著) おまえの罪を白しろ(真保裕一/著) 夜が暗いとはかぎらない(寺地はるな/著) ポルシェ太郎(羽田圭介/著) キボウのミライ(福田和代/著) 白魔の塔(三津田信三/著) 帰還(堂場瞬一/著) シーズーモンスター(伊坂幸太郎/著) ロイスと歌うパン種(ロビン・スローン/著)

●随筆・詩などの文学 唐詩和訓(横山悠太/著) 一度きりの人生だから(伊集院静/著) おやつが好き(坂木司/著) 野村望東尼姫島流刑記(浅野美和子/著) もみじの言い分(村山由佳/著) 思わず考えちゃう(ヨシタケシンスケ/著) マリコを止めるな!(林真理子/著)

●その他の本 数字で話せ(斎藤広達/著) その子の「普通」は普通じゃない(富井真紀/著) 和えサラダ(藤井恵/著) 営業の問題地図(藤本篤志/著) 読みたい絵本(momo編集部/著) すべては救済のために(デニ・ムクウェゲ/著) ベッティル・オーケルド(著)



『キボウのミライ』  
福田和代/著  
祥伝社



『おやつが好き』  
坂木司/著  
文藝春秋



『和えサラダ』  
藤井恵/著  
主婦と生活社

## みんなの としょかん



市民図書館

TEL (921) 4646

FAX (921) 4896

<http://www.library.dazaifu.fukuoka.jp/>

## としょかんカレンダー

令和 元年	日	月	火	水	木	金	土
7		①	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	⑬	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

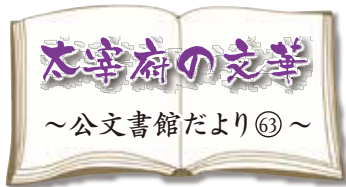
○のついた日は休館日

金・土曜日(祝日を除く)は午後7時まで開館しています。

## 竹の曲と太宰府文化財保存顕彰会

「竹の曲」は太宰府天満宮の神幸行事の祭中に奉納する芸能で、「六座」と呼ばれる天満宮の氏子の子孫達が代々受け継ぐ太宰府市を代表する古典芸能です。現在では、竹の曲は福岡県の無形民俗文化財に指定されています。

昭和27(1952)年に竹の曲は助成すべき「郷土芸能」であるとして、文化庁の前身である文化財保護委員会に選定されました。この選定を受けて竹の曲の解説冊子が作成され、そのなかで竹の曲は「文化発祥のゆかり深き太宰府の誇り」であると記されています。



度向上を図りました。

翌年5月には太宰府町公民館で太宰府文化財保存顕彰会発会式と「竹のはやし」を讃える会が開かれます。当時の公民館報や顕彰会の記録などによると、顕彰会の会長に中村久二町長が就任し、事務所は公民館に置かれました。顕彰会の規約も制定され「文化財を保存顕彰して後世に正しく伝え以て文化日本建設に貢献すること」を目的としました。

その後、竹の曲を太宰府町民に周知することを目的として、讃える会が開かれました。当時の開催通知には「町民の間には未だその価値の認識すら極めて薄いのが現状」であるとして、顕彰会発足を契機に町内へ

の普及に努めていたようです。会では、顕彰会評議員である西正寺の山内興隆による解説が行われ、最後に竹の曲の実演がありました。

顕彰会発足後、町内外で竹の曲の広報が活発化します。町外では、同年10月に開催された「九州地区郷土芸能大会」に参加します。この大会は文化財保護委員会と長崎県教育委員会の共催によって長崎市で開催され、九州各県から郷土芸能が参加しました。町内では公民館が大会出場に向けて作成した回覧文に、竹の曲が「福岡県を代表して」参加する旨を記して、

公文書館 篠崎 将貴